

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とかがわることができる人を育てます。また多文化共生社会で活躍できる人を育てます。

★多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と教育相談により「4つの力」を育みます。

1. **学び続ける力**：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。
2. **他者と関わり生きていく力**：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。
3. **課題を乗り越える力**：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。
4. **自分の将来を考える力**：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。

## 2 中期的目標

## 1 「学び続ける力」を育む

- (1) わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。
- (2) すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。
- (3) 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。

※学校教育自己診断における生徒の学習満足度 83%以上 (R3：81.6% R4：89.1%)

## 2 「他者と関わり生きていく力」を育む

- (1) すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。
- (2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。
- (3) 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。
- (4) ボランティア活動、地域連携などの取り組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。

※学校教育自己診断における生徒の教育相談満足度 78%以上 (R3：72.9% R4：78.3%)

## 3 「課題を乗り越える力」を育む

- (1) 総合的な探究の時間等において、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。
- (2) 生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。

## 4 「自分の将来を考える力」を育む

- (1) 職場見学やインターンシップを通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。
- (2) 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取り組みをすすめる。

※学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度 83%以上 (R3：89.6% R4：89.1%)

## 5 多文化共生社会で活躍できる力を育む

- (1) 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜実施校2年目として、日本語指導が必要な生徒に対する日本語運用能力の向上や母語指導の充実、進路実現に向けての支援体制を整える。
- (2) 学校経営推進費 (R4より3年間)：「日本語教育推進校」としてのミッションを担うための環境整備計画をとおして多文化共生の学校づくりをすすめる。

※学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」 78%以上 (R4より新規：76.7%)

## 6 地域に根ざした信頼される学校づくり

- (1) 家庭や地域との連携強化により、多様な生徒を支える地域に根ざした多文化共生をすすめ、すべての生徒一人ひとりを大切に育てていく。
- (2) 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取り組みをすすめる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年1月実施分] (R4年度値)	学校運営協議会からの意見
<p>○<b>生徒の結果</b>は、22項目中18項目で肯定的回答が80%を超え8項目で90%を超えている。学校生活については「入学してよかった」84.4% (95.7%)「学校へ行くのが楽しい」74.2% (82.6%)。授業関係では、「授業はわかりやすい、内容に満足」84.4% (89.1%)、「教え方に工夫」86.6% (97.8%)、「学習での努力を認めてくれる」89.0% (95.7%)、「評価の仕方や基準を事前に示されている」91.5% (93.5%)、「学習評価について納得」90.3% (93.5%)であった。すべての授業で1人1台端末による学習支援クラウドサービス上のグループウェアの活用と多様な授業展開により深い学びへの取り組みが進んだ結果と考える。</p> <p>今年度は2年目の卒業生を出すことになり、卒業予定生徒にはきめ細やかな進路プログラムを実施した。結果、「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答が88.7% (97.8%)であった。「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的回答が91.0% (89.1%)となった。多様な生徒のニーズに合ったきめ細やかな情報提供を進めていきたい。</p> <p>○<b>保護者の結果</b>では、16項目中13項目で肯定的回答が80%を超えているが、「入学させてよかった」97.7% (96.2%)と高い一方、「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」62.2% (86.8%)と大きく落ち込んでいる。生徒をめぐる背景の分析を行いたい。「懇談や通知で学力や到達度等分かりやすい伝えられている」93.3% (96.2%)、「生徒指導方針に共感できる」90.7% (92.5%)、「命の大切さやルールを守る態度」90.7% (92.4%)、「家庭へ</p>	<p>【第1回】令和5年7月21日開催 ○会長・副会長の選出 ○大阪わかば高校の状況について (学校長より) 在籍生徒数、部活動実績、授業・行事における取り組みの様子、卒業予定生徒の進路状況等の説明 ○令和5年学校経営計画について (学校長より) めざす学校像、中期的目標についての説明 → 委員からの意見・質問なし ○スクール・ポリシー案について (学校長より) グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーはこれまでも取り組んできている内容である。第1回学校運営協議会の意見を受けて、8月にスクール・ポリシーを決定する予定。 → 委員からの意見・質問なし ○令和6年度使用教科用図書採択について → 意見なし、承認された。 ○全体を通しての委員からの意見・質問は特になし</p> <p>【第2回】令和5年12月20日書面開催 ○大阪わかば高等学校スクール・ミッション (案) について ○令和5年度学校経営計画に基づく本年度の取り組みの進捗について ○令和5年度学校教育自己診断の質問項目について ○委員からの意見・質問はなし。令和5年度学校教育自己診断の質問項目については了承された。</p>

府立大阪わかば高等学校

<p>の連絡や意思疎通」93.2%（86.8%）と高い肯定的回答となった。                  2年目の進路指導については、「進路や職業について適切な指導」81.8%（84.9%）                  保護者からのコメントより「中学時は不登校だったが今は休まず登校できている」「担任の先生によく気にかけてもらって感謝」等いただいている。                  ○<b>教職員の結果</b>では、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」92.3%〔内よくあてはまる 56.4%〕（90.6%）、「いじめが起こった際の対応」92.1%〔内よくあてはまる 47.4%〕（90.6%）、「学校行事が生徒にとって魅力あるものへの工夫改善」97.4%（96.9%）、教育活動について日常的に話し合っている」92.3%（93.8%）など 10 項目中 7 項目で 80%を超えた。課題は、生徒・保護者・地域への情報発信が 71.1%とグループウェア等の活用で充実させていきたい。</p>	<p>【第3回】令和6年3月7日開催                  OR5 学校教育自己診断アンケートの結果と集計方法について説明（首席より）                  →委員より、回答率について質問（今年度は生徒在籍数の増加で回答数が増加したため）                  OR5 年度学校経営計画及び学校評価について：本校の現状や多文化教育、進路指導等について学校経営計画と関連させて説明。→委員より、先進的な多文化教育や地域との関わりについて評価                  OR6 年度学校経営計画及び学校評価（案）について： 外国にルーツを持つ生徒の増加等、先を見据えた取組等について学校経営計画を踏まえて説明 →委員より、異議なし。承認された。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 「学び続ける力」の育成	<p>(1) 安心して学べる学習環境の整備</p> <p>(2) わかる喜びやできる楽しさを実感できる学習支援</p> <p>(3) 教員の授業力向上</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切に授業環境を整える。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を積極的に活用し、わかりやすい授業づくりを推進する。</li> <li>学習支援クラウドサービスを活用した学習活動を発展させる。</li> <li>授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観点別学習状況評価の観点を持った授業研究をすすめる。</li> <li>1人1台端末を活用した授業実践の研究をすすめる。</li> <li>年に3回、授業見学月間を設定し、授業見学シートを活用する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」83%以上をめざす。[91.3%]</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業などで視聴覚機器やデジタル」などを活用している」90%以上。[95.7%]</li> <li>「授業はわかりやすく、内容に満足できる」83%以上を維持。[89.1%]</li> <li>「教え方に工夫をしている先生が多い」83%以上を維持。[97.8%]</li> <li>「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」83%以上を維持。[95.7%]</li> <li>「学習の評価について納得できる」83%以上を維持。[93.5%]</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用の好事例の共有の研修の機会をもつ。</li> <li>授業見学月間の授業見学回数を2回以上授業見学シートを3枚以上作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」78.2%であった。静かに学べる授業環境を整えるためのルール・マナーの指導や学びやすい授業のユニバーサルデザイン化を進め、集中して授業に参加できる環境を整えたい。(△)</li> <li>「授業などで視聴覚機器やデジタル」などを活用している」90.5%であった。1人1台端末の授業活用が広がり、プロジェクタ等の効果的な使用で分かりやすい授業につながっている。(○)</li> <li>「授業はわかりやすく、内容に満足できる」84.8%であった。(○)</li> <li>「教え方に工夫をしている先生が多い」86.6%であった。(◎)</li> <li>学習支援クラウドサービスをすべての授業で活用し、グループウェアの利用などそれぞれの教科でわかりやすく興味をもたせる工夫を行っている。</li> <li>「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」89.0%であった。(◎)</li> <li>「学習の評価について納得できる」90.3%であった。どの授業でも受講当初に評価の基準をわかりやすく示している。(◎)</li> <li>1人1台端末を活用した教員研修を2回実施しグループウェアの授業実践の共有を図った。(○)</li> <li>授業見学週間を年3回(6・10・1月)実施した。見学シートの作成は、平均して約2枚であった。シートの交換により各授業での工夫や取組みの共有がすすんだ。(△)</li> </ul>
2 「世界に関わる力」の育成	<p>(1) SC、SSW 等の外部人材との連携による、きめ細かな教育相談体制および生徒指導</p> <p>(2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーの習得と SST の活用</p> <p>(3) お互いの個性の尊重</p> <p>(4) ボランティア活動、地域連携などの取組。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、外部人材との協力により教育相談体制を構築する。</li> <li>生徒の状況をさまざまな角度から観察し、丁寧な指導と温かみのある声かけにより、問題事象の早期発見、早期対応を心がける。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会をつくりながら、SST をすすめる。</li> <li>総合的な探究の時間と LHR の内容の整理し SST の内容がより効果的になるよう企画していく。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自他を大切にすることを育むために、3R を大切に取る取り組みを継続して行う。</li> <li>人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。</li> <li>多文化共生やネットリテラシーに関して LHR や行事等で学ぶ機会や講演会を企画する。</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内外美化活動ははじめ地域におけるボランティア活動の企画を行う。</li> <li>近隣保育園、支援学校との交流の継続。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校教育自己診断の教育相談満足度 75%以上。[78.3%]</li> <li>生徒向け学校教育自己診断の入学満足度 83%以上を維持。[95.7%]</li> <li>生徒向け学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」83%以上を維持。[95.7%]</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」83%以上を維持。[97.8%]</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」83%以上を維持。[95.7%]</li> <li>学校教育自己診断において「多文化共生について学ぶ機会がある」の項目設定。78%以上。[76.7%]</li> </ul> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の内容、回数、振り返りがどうであったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度は 69.0%であった。SC など専門職との連携をより密にし相談しやすい体制づくりをすすめる。(△)</li> <li>生徒向け学校教育自己診断の入学満足度は、84.4%であった。(○)</li> <li>生徒向け学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」84.2%であった。(○)</li> <li>生徒の課題について中学校ははじめ関係機関との連携を迅速に行うとともに、生徒に寄り添った丁寧な指導を心がけている。</li> <li>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」92.7%であった。(◎)</li> <li>SST や人権学習を通して考える機会をつくることのできた。アンケートの振り返りからよりよいプログラムになるよう今後も充実させていく。</li> <li>「人権について学ぶ機会がある」90.6%であった。(◎)外部講師を招いての人権講演会や人権 HR を丁寧に行い生徒たちが考える機会をつくった。</li> <li>「多文化共生について学ぶ機会がある」91.9%。日本語指導特別枠校として2年目となり、外国にルーツをもつ生徒たちが学校行事等で自文化について発表する場が持た。 (◎)</li> <li>本年度も学校周辺の清掃のクリーンアップ活動を行った。また、地域での多言語絵本読み聞かせなど多文化共生の交流会にボランティアとして参加できた。多文化の授業で近隣の支援学校と授業交流会を行った。(◎)</li> </ul>

## 府立大阪わかば高等学校

3 「課題を乗り越える力」の育成	<p>(1) 探究等の教育活動における SST の活用</p> <p>(2) 外部人材を活用した支援</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間において計画的に SST を実施する。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CC と連携して生徒支援を行う。</li> <li>外部機関との連携も積極的にを行う。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間において計画的に SST が実施できたか。教育産業との連携により前期8回、後期8回 [年16回]。</li> <li>SSTの実施内容についての教員の振り返りがどうであったか。教員アンケート等により検証する。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケース会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。情報共有が効果的に行われたか修学支援委員会等において検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水曜日3・4限に1年次向け SST を教育産業と連携して内容と教材をより充実させ年間6回実施した。2年次以上では各教科で作成した総合 SST を全 18 枠を実施し、7・8限には群総合として13回実施した。→合計37回(◎)</li> <li>SSTについて外部団体と担当教員との打ち合わせを丁寧に行い、教員アンケート結果で内容を検証した。(○)</li> <li>SC、SSW、CC との連携が機能し、ケース会議や生徒、保護者対応にも外部人材の協力・助言により生徒支援を継続して行えた。次年度もより組織的に機能するよう体制の構築を図りたい。(○)</li> </ul>
4 「自分の将来を考える力」の育成	<p>(1) 将来を見すえた進路指導</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を引き出し、それぞれの生活スタイルやペースに合わせた受講登録を通して将来について考える力をつける支援をする。</li> <li>通信併修や技能審査・高認など外部単位の案内を丁寧に行う。</li> <li>ガイダンス、講演、リモート見学会等、生徒一人ひとりが具体的な進路を見据えることができる取り組みを計画する。</li> <li>外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取り組みをすすめる。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」83%以上を維持。[97.8%]</li> <li>生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」83%以上を維持。[89.1%]</li> <li>多様な生徒の状況、ニーズに合わせた、外部講師や地域人材などを活用した講演会や交流などの回数および内容(5回以上)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「将来の進路や生き方について考える機会がある」88.7%であった。(◎)今年度初めての秋卒業生11名を出し、3月卒業は35名。進路結果については、就職14名、進学18名(大学8名、短大3名、専門学校等7名)、その他3名。</li> <li>「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」91.0%であった。卒業予定生徒を中心に丁寧な進路ガイダンスを行うことができた。(◎)</li> <li>学校設定科目「シナジー生野」「インターンシップ」や福祉関係の授業において外部講師を招いて授業や地域の施設への訪問等を10回以上実施できた。(◎)</li> </ul>
5 多文化共生社会で活躍できる力の育成	<p>(1) 日本語指導が必要な生徒に対する支援体制の構築</p> <p>(2) 多文化共生の学校づくり</p>	<p>(1) 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校として、日本語指導が必要な生徒に対する母語指導の充実、進路実現に向けての支援体制を整える。</p> <p>(2) 学校経営推進費(R4)「日本語教育推進校」としてのミッションを担うための環境整備計画をとおして多文化共生の学校づくりをすすめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語指導が必要な生徒の入学満足度の肯定的回答80%をめざす[95.5%]</li> <li>学校教育自己診断における生徒「多文化共生について学ぶ機会がある」78%以上 [R4より新規:76.7%]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語指導が必要な生徒の入学満足度は98.1%であった。特別枠校2年目として日本語指導の授業の充実、母語継承語の指導ややさしい日本語での授業づくりなど支援体制が整いつつある。(◎)</li> <li>文化祭での発表や地域での活動を行った。</li> <li>学校教育自己診断(生徒)「多文化共生について学ぶ機会がある」91.9%。(◎)</li> </ul>
6 地域に根ざした信頼される学校への	<p>(1) 地域との連携、生徒一人ひとりを大切に育てる</p> <p>ア. 受験生・中学校・地域向け広報の充実</p> <p>イ. 多様な生徒たちの活躍の場づくり・居場所づくり</p> <p>(2) 学校における働き方改革の取り組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア・HPでは入試関係や行事、学校生活について適宜発信する。</p> <p>イ・生徒会活動を通じリーダーを育成し、生徒が主役の学校行事の企画をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>wakaba カフェの継続と居場所となる図書館経営をすすめる。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種ソフトウェアやクラウドサービスを有効活用し、業務の効率化をはかる。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容、頻度、反応がどうであったか。</li> <li>学校行事への肯定的回答80%をめざす。生徒向け学校教育自己診断「行事は楽しく行えるよう工夫されている」85%以上をめざす。[95.7%]</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の時間外労働時間数を前年度より低減する。</li> <li>ストレスチェック集団分析結果で総合健康リスクを100以下を維持する。[R4/81]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」88.6%であった。HP(ブログ)の更新回数は84回。学習支援クラウドサービス上の学校掲示板の活用で保護者への情報提供を行えた。(◎)</li> <li>「行事は楽しく行えるよう工夫されている」84.7%であった。生徒会が中心となり生徒が参加しやすい内容の企画を進めたが、より多様なニーズへの対応をめざしたい。(○)</li> <li>教職員の時間外労働時間数は月平均12.0時間で昨年度より低減した(R4:19.2時間)(◎)</li> <li>ストレスチェック集団分析での総合健康リスクは87と昨年度より上がったがより協働性を高め働きやすい環境づくりに努めたい。(○)</li> </ul>